

FAQ

質問

個人での応募は可能ですか？

回答

できません。応募要件にあるとおり、応募資格があるのは、「学校長が推薦する教員」もしくは「教育委員長が推薦する教員経験のある職員」です。

質問

特別支援学校の教員も対象ですか？

回答

対象です。学校教育法に定める小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の現職教員、もしくは指導主事等の教育に係る教育委員会職員が対象です。

質問

幼稚園・高専・大学の教員も対象ですか？

回答

いいえ。対象となるのは、学校教育法に定める小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の現職教員、もしくは指導主事等の教育に係る教育委員会職員です。

質問

教員ですが、現在休職して大学院に在籍しています。応募できますか？

回答

休職して大学院在籍中の方は現職教員とはいえませんので、応募できません。大学院に在籍中の方でも現職の教員であれば、応募できます。

質問

教育委員会を通して応募する必要がありますか？

回答

主催者の意向により「学校」単位の応募となっていますので教育委員会を通すことは要件ではありません。しかし、選抜された場合の海外出張手続きのため、事前に教育委員会に連絡しておくことをお勧めします。

質問

「教育委員会」「附属学校を置く大学」として申請を取りまとめる必要がありますか？また、取りまとめて送付した場合、結果はどこに送られますか？

回答

学校長からの申請が基本ですので、取りまとめる必要はありません。ただ機関として応募状況を知っておきたいということであれば取りまとめた上で送付してください。結果は申請用紙を送信した電子メールアドレスへ「返信」として連絡しますので複数のアドレスへ同報ご希望の場合は申請用紙の送信時にCCに入れてください。

質問

教育委員会が学校を推薦した場合、選抜時に優先してもらえますか？

回答

教育委員会の推薦有無は、選抜の際、考慮される項目ではありません。

質問

学校がESDを実践していないと応募できませんか？

回答

できます。例えば環境教育であったり、地産地消という形を教育現場において実践する計画や抱負があればご応募いただけます。

質問

応募に際しユネスコスクールへの加盟は必須でしょうか？

回答

必須ではありません。

質問

ESDを地域とともに実践していたり、ESD関係の組織と関わっている必要はありますか？

回答

特に必要ではありません。連携していなくとも個別のさまざまな活動を行っていたり、今後の実践を予定している学校も応募資格はあります。

FAQ

質問

選考はどのような方法で行われますか？

回答

提出された申請用紙をもとに書類選考を行います。申請用紙(特に「計画」「抱負」)は出来るだけ明瞭に記載してください。面接はありませんが、必要に応じて事務局からご連絡をすることもあります。

質問

自費での参加はできますか？

回答

できません。

質問

選出後、海外出張の許可が得られない場合、休暇をとって個人で参加する事はできますか？

回答

できません。予め許可が得られることを確認の上で応募してください。

質問

選考後異動があった場合には参加資格はどうなりますか？

回答

「学校長が推薦した現職教員」という条件なので、異動でその組合せがなくなった場合、学校側にも教員側にも参加資格は残りません。

質問

選考後、不参加者が出た場合は、参加者の人数は変わるのですか？

回答

変更はありません。選考過程で補欠候補を決めておき、不参加がでた場合には補欠が繰り上がります。ただし直前のキャンセルで補欠の渡航準備が間に合わない場合はこの限りではありません。

質問

プログラム参加者の義務として報告書の提出とありますが、これは継続的なものなのでしょうか？

回答

米国派遣後および合同会議後の2回に分けて報告の提出を予定しています。

質問

参加者は7月の合同会議には必ず出席しなければなりませんか？

回答

はい、必須です。米国への派遣及び東京での合同会議の全日程に参加できることが応募の条件です。

質問

プログラム終了後の義務はありますか？

回答

合同会議を経て、両国の参加教員は、ESDを題材に日米の教育交流を目的とした共同プロジェクトを立ち上げ、プログラム終了後も連絡を取り合い、そのプロジェクトの実現に努めるよう期待されています。

質問

米国ではどのようなところを訪問しますか？

回答

小学校、中学校、高等学校のほか、大学や、文化施設、ESDを実践している機関など、現地実施団体が選んだところを訪問します。

質問

訪問する都市はどこですか？

回答

ワシントンDCとサンフランシスコを予定しています。

質問

これまでの参加者との情報交換の機会はありますか？

回答

あります。参加者は米国へ出発するまでの期間、過去5回の日米の参加者たちが集うインターネット上でのフォーラムなどを介し、これまでの情報を共有し、訪問のための準備をします。また、合同会議などではこれまでの参加者にも参加してもらい、情報交換をはかっています。